

へ 全農本部派に於ける新潟県の協同、三宅、群馬県の須永等は、軍部との関係を密接にして、総本部をブライソング勢力の貯水池にしやうと企ててゐるが、総本部では、組合の右翼化に反対するため、全農本部との統一を叫び、大坂、京都、奈良、長岡等は、不平等合同が完成してゐる。

真に、小作農民の生活を守るために、農民安全会活動部、落世話役活動部、農民運動史に新らしい斗争方針、組織活動の効果をせむらうし、果敢に斗争を再開して来た。全国会議派本部は、資本家地主政府のガムシヤラを揮斥し、怒をうけ、今は公然と本部をまつことの出来ず、困難は有様である。

三福佐地方について

イ 福岡県下の北九州筑豊、大牟田市は、金属、化学、機械器具製造工業、軍需品の生産地帯として、日本資本主義の心臓ともいわれる重要生産地帯に於いて、九州沖漕における、工場、砂山、日傭労働者の激発の約六割を占め三十三万人を擁してゐるのである。最近に於ける福岡県下の工場労働者の動きをみる。

昭和八年末 九万八千四百五十六人
昭和九年六月 十万一千二百六十一人

と昭和九年に於て二千七百五十人の労働者が、八幡製鉄所、神戸製鋼所、小倉製鋼、福岡渡辺製鉄工所その他の軍需品製造工場に雇入れられてゐるのであるが、一方福岡県農業紹介所事務局の調査によれば、失業者は三万人、内経済を要する失業者が二万であつて、失業者の多くは、東京に次ぐ、全国第二位にある。軍需インフレによつて各工業は活気をみせ、工場日傭労働者の数が増加してゐるにせよ、かからず失業者が一向減らなうと言ふことは、常套語では考へられぬことである。イ 失業者が、ヘラな、こと、否、今、何、尚、何、熱、練

労働者

労働者は、失業率の上つてゆくのは、あるが、ことごとく、炭坑について例をとつてみる。本年七月中に於ける九州山口県下における石炭坑夫の移動は、

解雇された者 八千三百五十一人 雇入れられた者 八千二百八十七人

で解雇された者の中、他の炭山に仕事を求めるこの出来に者か三八五三人、農家に傭つた者が一千二百四十人、そして残りの三七五七人は求むるに仕事をなく、失業の飢饉にさらされてゐるのである。資本家は以上のやうに八三五一人の労働者を炭坑から押し出して失業の路頭に迷わせ、一方には、八一七人の労働者を雇入れ、新賃し、雇入れられてゐる労働者は、馬車馬のこと、温和とゆき、それには、賃銀、永時間労働に耐へるのに取てもヨク通した、疲弊させた農家の小作人運、その手前であつて、失業した者が更に雇入れられてゐるのでは、資本家は、何故に、うしたことをするか、それは、今の資本家共には労働者の技術とか経験とかは大した問題でなく、頑強で奴隷のやうに働く人間こそ必要で、彼等は、資本家は、モウケル、ことか、求むるので、賃銀の高、熟練工をケン解雇してゐるのである。以上が、坑夫の一例であるが、他の工場に於ては、同様で、軍需工業が景気に響いて、却つて、失業者は、漸く作られた。失業者の帰農は、ワエル、ことと、行るのである。

福岡県は、農家総戸数十四万九千九百九十九戸、総戸別は、約十二万戸、平均耕作反別は、二反、歩におたり、全国農家の平均耕作反別よりは、ワゾ、カ、多、い、である、それと、従来、福佐地方の農民の生活が、豊か、やうに、言、れ、て、きた、が、それは、東北、北陸、の、老、作、地、の、農民、に、ク、ラ、ヘ、イ、の、こと、であつて、農業、経営、の、その、に、於、て、福、佐、地方の農民の生活は、かなり、良、い、わけ、がある、若し、然ら、ば、福、佐、地方の農民の生活は、ユ、トリ、か、ある、と、する、は、ら、は、

- 一 筑前川流域に地味、肥沃な、土、を、農、耕、地、が、有、る。
- 二 老、作、地、である。
- 一 農、村、の、子、孫、婦、女子、の、多、く、は、工場、に、通、勤、して、イ、カ、ラ、カ、家、計、を、補、つ、て、ゐ、る。